



男の娘  
コスプレ撮影には  
ご用心



「…なあオッサン…コスプレモデルとは聞いてたけどこんな格好とは聞いてないぞ…」

「良く似合ってるじゃないか♪可愛いよ♡」

「…俺は男だよ…なんだよコレ…」

「まあまあいいじゃない、お金も結構な額払う約束なんだから」

「…約束は守ってくれよ…」

「大丈夫大丈夫！写真も個人的なものだからバラ撒いたりしないから安心してよ」



「いいよいいよ!ごうち見て笑って!」

(金の為とはいえキモいなあ...)





「…」  
「ほうもっと表情柔らかくして！」

「…なあオッサン…男にこんな格好させて楽しいの…?」

カ  
シ  
ャ

カ  
シ  
ャ





「楽しいに決まってるだろ  
君みたいな可愛い子が大好きなんだよ♪  
ホラホラ次はスカートめくって♪」

「…」  
（ホントキモいなあ…早く終わんないかな）





「顔と同じでおちんちんも可愛いねえ♪」

カアアア

「う、うるさい！」  
「いいねその反応！」  
「おじさん興奮してきちゃったよ」







「ほらほらもっと足開いてこっちに見せてよ」

「…もういいだろ…」

「まあまあいい写真が取れたらお金も弾むからさよ」

「…本当だな…?」

「うう…そんな近くで撮るなよ…」

カチャ

パシヤ

「ハハッ

いいねえその表情

オジサン意地悪したくなっちゃうなあ」





「ほらっ、パンツ脱がせちゃうぞっ」

えっ!?

「えっ…  
えっ…な、何…」

ずるっ





「な、何すんだこのクソオヤジ！」  
「ほほう  
顔の通り可愛いおちんちんだねえ♡  
皮もかぶったまんまで」  
「う、うるさい！早くパンツ返せ！」

カーッ？





「いいねいいねその顔  
おじさんこんなかわいいおちんちん  
目の前にしたら吸い付かずにはいられないよ♡」  
「ひ、ひやあッ!」

ひく

ひく

ひく







「ひ、ひゃあ！  
も、もう出るっ！」

あゝ

あゝ

びゅ  
びゅ

「ははっ  
こんなかわいいおちんちんでも  
精子の量は一丁前だなあ  
さすが若いだけあるなあ♪」  
「ご、こんなキモオヤジの口で  
イカされるなんて…」





「さて次はおじさんのことを気持ちよくしてもらおうかなあ  
君だけ気持ちよくなったら不公平だろ？」

「や、やだよそんなこと！  
写真だけって約束だろ！」





「まあ別に今帰ってもいいけど  
金は渡さないし、今までの様子もビデオ録画してるしどうすればいいか  
わかるよね♪」

「う、うう  
このクソオヤジ…」

ふに

ぶに

うぐ…





「んんうっ…」  
「歯は立てるんじゃないぞ  
もっと奥まで咥え込め！」

んんうっ…

んんうっ…  
んんうっ…



「おおおお  
たまらないねえその表情♪」

「どれ、喉の奥まで精液注いでやるから  
しっかり飲み込めよ♪」









「ひひい…」

「こぼすなよ、しっかり飲み込め」

ひ

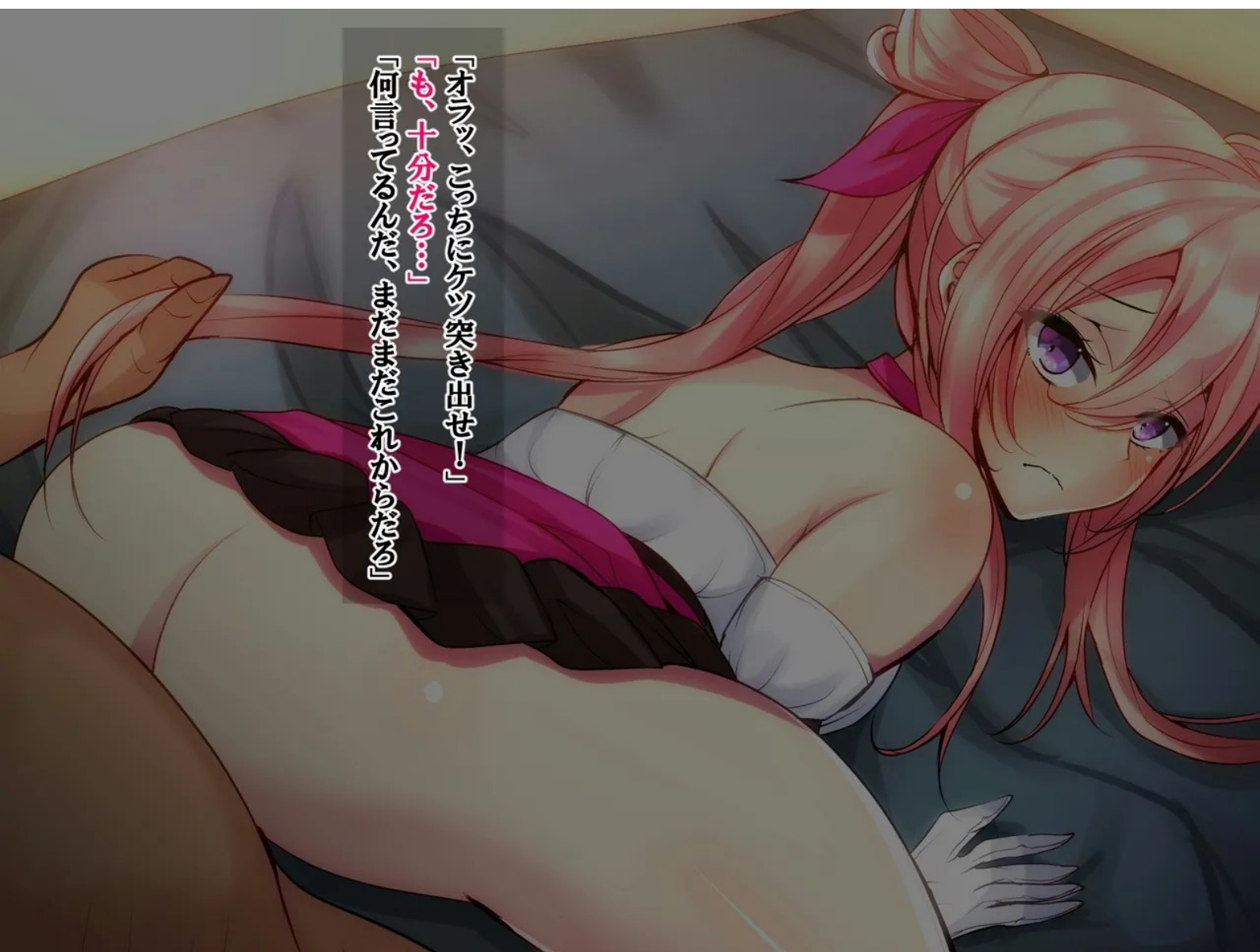
「む、無理い…」

「なんだ根性ないなあ」

ひ  
っ

ド  
ク  
ド  
ク





「オラッ、こっちにケツ突き出せ！」  
「も、十分だろ…」  
「何言ってるんだ、まだまだこれからだろ」





「うーんいい格好だなあ♪」  
「も、もういいだろお…」  
男の相手なんてコメンだよ…」  
「まあまあそう言うなって♪」

はー

はー

「ホラホラ  
 どうだ自分のよりずっと  
 デカイチンポ擦り付けられる  
 気分は…」  
 「…最悪だよ…」

ズ  
 リ  
 ズ  
 リ

うん…

「ホラホラ  
 どうだ自分のよりずっと  
 デカイチンポ擦り付けられる  
 気分は…」  
 「…最悪だよ…」

ズ  
 リ  
 ズ  
 リ

うん…

「ホラホラ  
 どうだ自分のよりずっと  
 デカイチンポ擦り付けられる  
 気分は…」  
 「…最悪だよ…」

うん…

ズリズリ



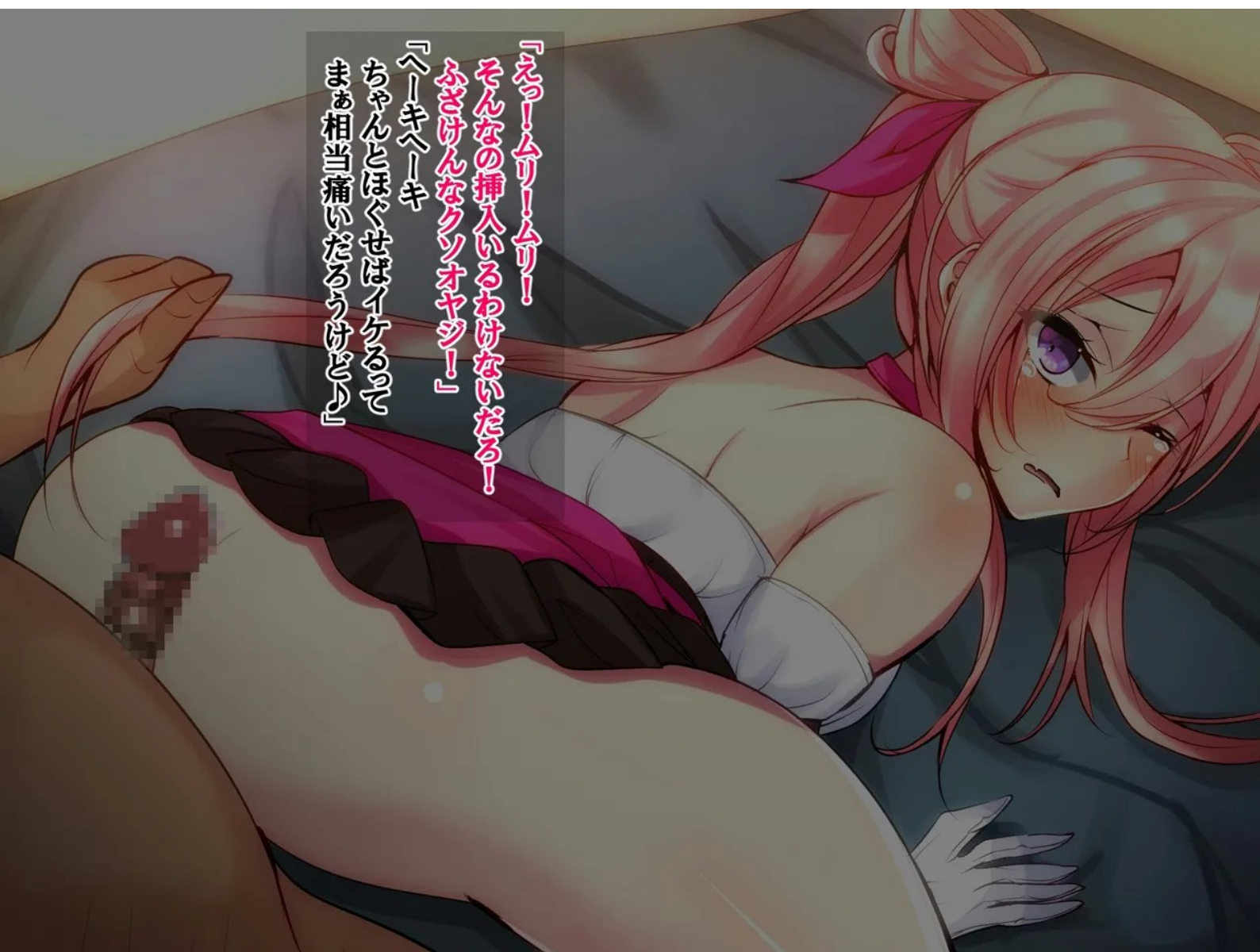


「やっぱり若いケツはいいなあ  
ムチムチでスベスベで♪」  
「き、キモいこと言うなあ…」



「うーんやっぱり擦り付ける  
だけじゃ物足りないなあ…  
やっぱりケツ穴使わないとな」





「えっ！ムリ！ムリ！  
そんなの挿入してるわけないだろ！  
ふざけんなクソオヤジ！」  
「へーキへーキ  
ちゃんとほぐせばイケるって  
まあ相当痛いだろうけど」



「よしこのぐらいほぐればいいだろ  
ほくらほら挿入れるぞぉ♪」  
「ム、ムリっ！  
それだけはムリッ  
口でも手でも使うから  
それは止めてくれっ！」





「そう言うなって  
ほらほら挿入ったぞ♥」  
「あっ、ひっ！  
裂ける！裂けるっ！」



「ははっ初めてとは思えないぐらい  
アッサリ挿入ったなあ  
実は自分で開発してたんじゃないかあ？」  
「あっ！あっ！」  
「ははっ応える余裕もないか」





「ふうっ、ふうっ  
さ、さすがに良く締まるなあ…  
オラッ、このまま出すぞ!」  
「ひゅ…ひゅ!」



「あっ…あひっ…」  
「ふう…飛んじまってるな  
今のうちにみんなを呼ぶか…」





「えっ…何…なんだアンタら！」

「おっ、戻ったか」

「みんな君とヤルために集まってくれたんだよ」

「ははは、話には聞いてましたが現物は想像以上に可愛い子ですなあ」



「な、何なんだよアンタら！」

「〇〇さんいくら約束とはいえ  
こんな可愛い子を先に一人占めとは  
良くないですよ♪」





「ははっ  
まあいいじゃないですか」

「警戒されないように最初は私一人で会って  
頃合を見て皆さんも登場する  
計画通りですよ♪」





「やっやめろお！放せよオ！」

「うーむ…このまま暴れられたら怪我ささせてしまうかもしれません…」

「一旦縛ってしまいいましようか」

「ふふっ、それなら服も破いてしまいいまよう」

「やめろよお！」





「な、何なんだよコレ！放せよ！」

「ふふふ

楽しみですなあ

この態度がどこで変わってメス堕ちするのかが」



「メス堕ち…  
ふざけんな！俺は男だよ！  
男にこんなことして楽しいのかよ  
アンタらは！」





「ははは、いいねえ本当に最高だよ君は  
その可愛い見た目に強気な性格…  
それでこそ堕とし甲斐があるって  
もんだよ



「そんな汚いもん押し付けんな！  
キモいんだよ！オッサン共が！」





「さあさあ  
それじゃあ始めますか  
ふふふどの位耐えられますかねえ  
この子は♪」



「や、やめるお！  
こ、こんな一度に相手に出来るわけないだろ！」

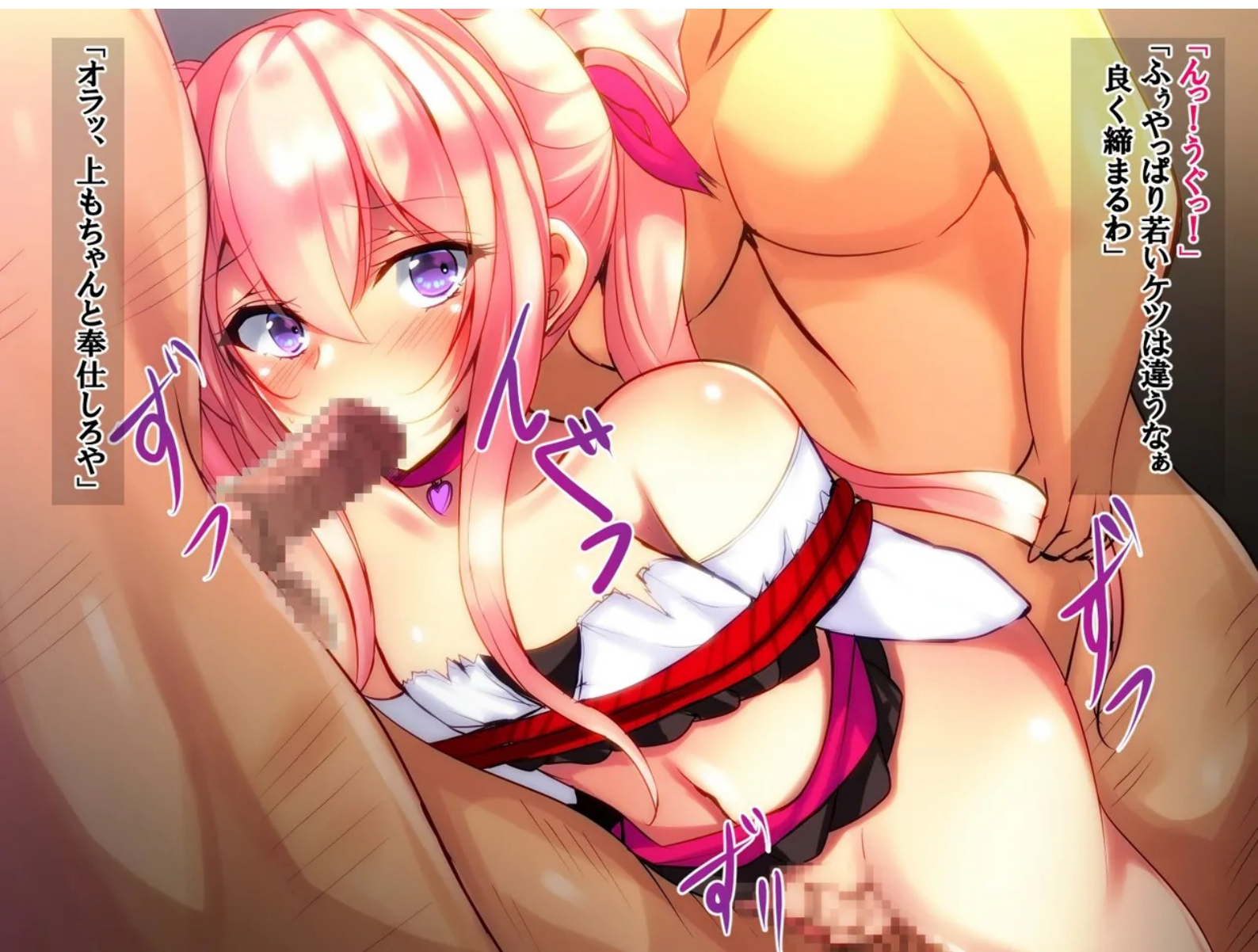
「おやおやどうしたんだい  
あつという間に弱気になって」





「んっ！うぐっ！」  
「ふうやっぱり若いケツは違うなあ  
良く締まるわ」

「オラッ、上もちゃんと奉仕しろや」



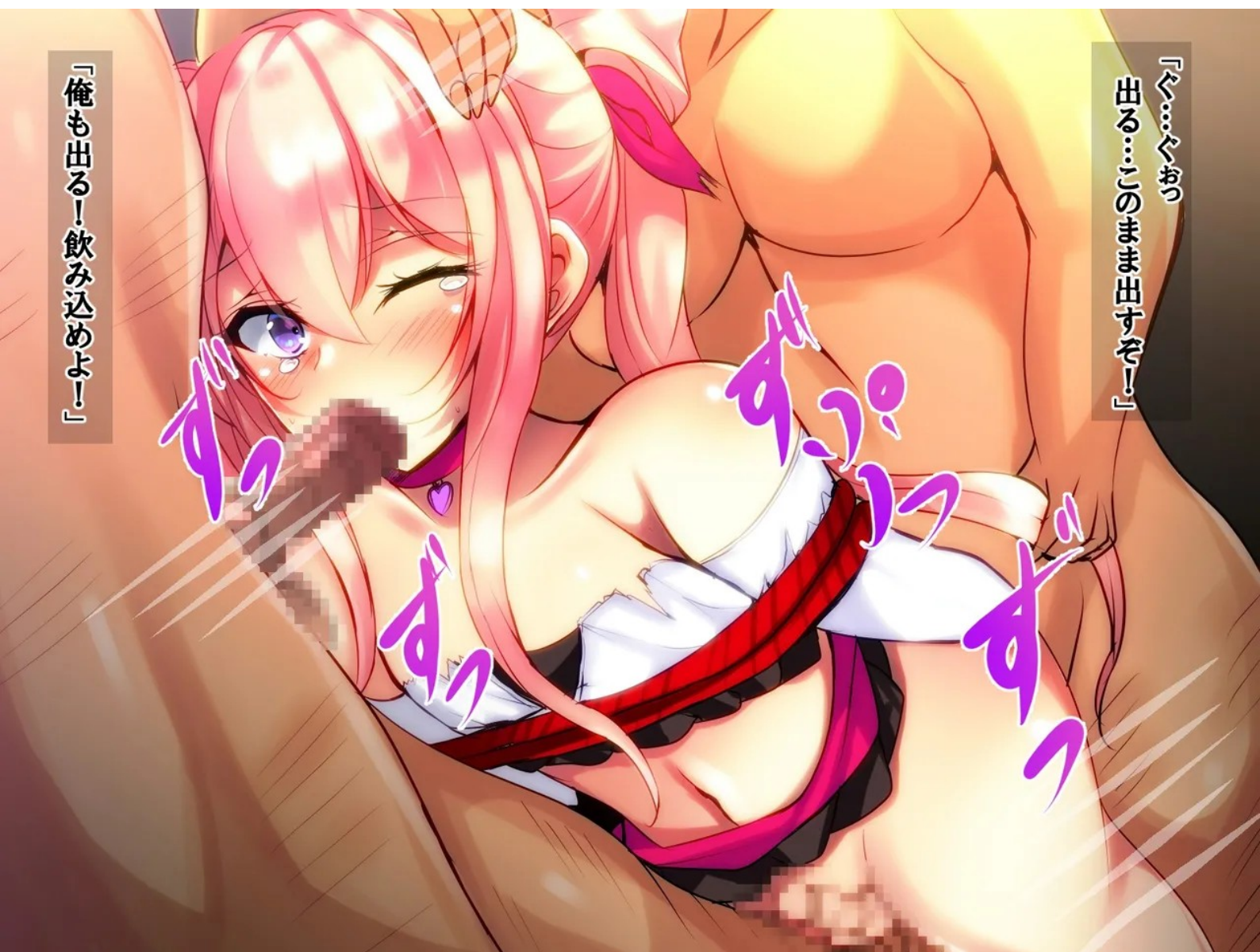


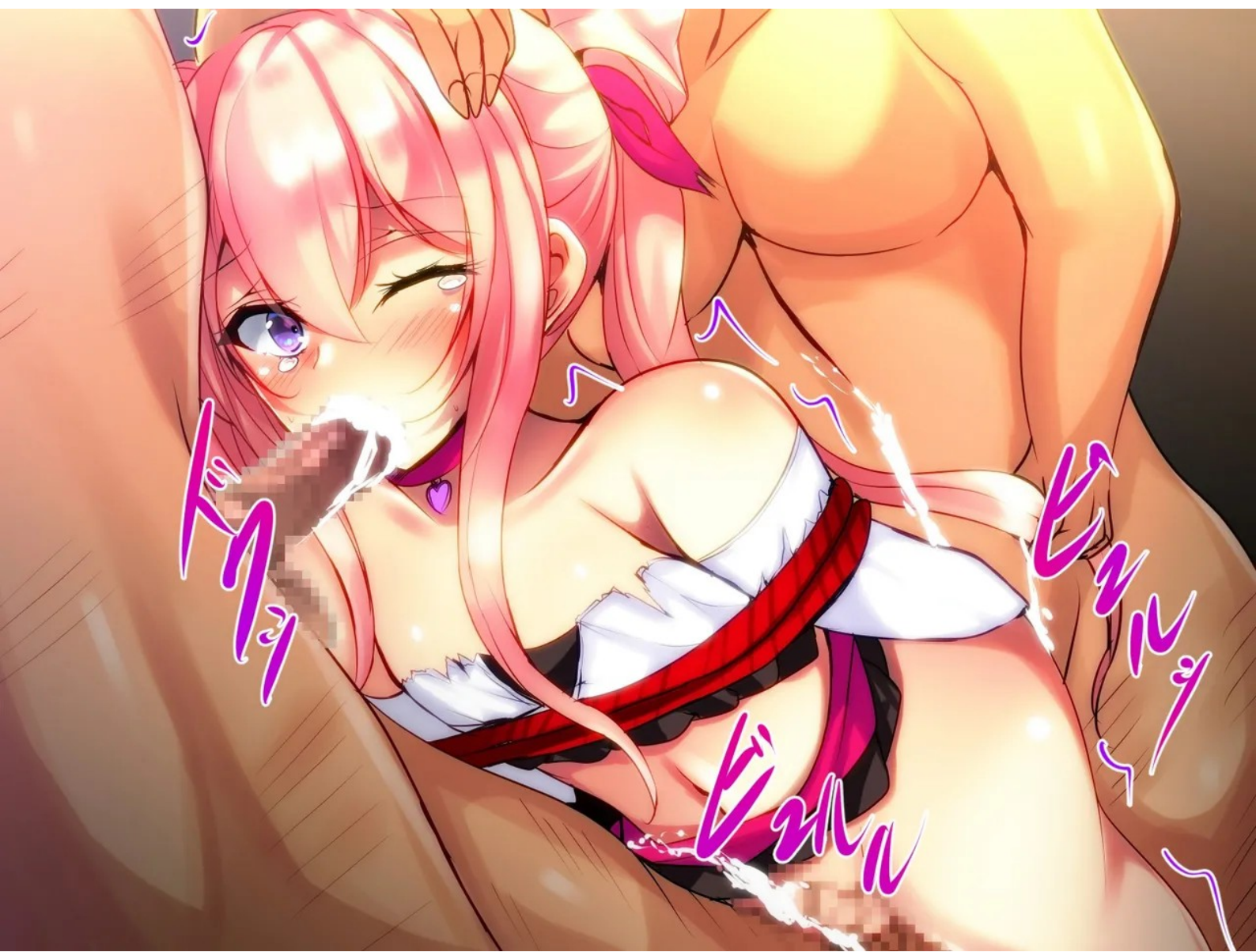


「ぐ…ぐちゅ」

出る…このまま出すぞ！」

「俺も出る！飲み込めよ！」









「あっ……あっ……」

「ははっこいつトロテンしたぞ  
初心者とは思えないなあ」

「普通初心者はこんなアッサリ挿入んないだろ  
どうせ自分でもケツ穴開発してるんだろ」  
「よし次だ次、どんどん輪姦せ！」

トロい……



「も、もうやめてくれ…」  
「オイオイまだ始まったばかりだろ  
それにトコロテンまでして本当は気持ちよくなってるんだろ？」  
「うっ、そ、それは…」





「ふふっもうかなりほぐれてきてるなあ  
あっさり奥まで挿入してるぞ♪」  
「あっ♡お、奥に…奥まで突かれてる♡」

がっ  
がっ

がっ  
がっ

ずっ  
ずっ

ずっ  
ずっ



「あっ♡もっと♡もっと♡壊れるまで突いて♡」

「ははっ自分から求めるようになったか

本当はメスなんだろう？チンポ欲しくてしょうがないんだろ？」

「あっ♡あっ♡もうメスでいいですう♡もっと…もっとお♡」

ずっ

ずっ





1時間後







「あはっ♡チンポ♡チンポもっとお♡」  
「すっかり欲しがりになったなあ」  
「ははっ、堕ちるのはあっという間でしたな」

























































































